おいしく、楽しく、美しく摂食機能の実力~削って詰める歯科医療から生きる質を求め看取りの医療へ~

〇植田耕一郎 日本大学歯学部 摂食機能療法学講座

(3月で定年となり4月から特任教授に就任)

西八王子摂食リハビリステーション (4月から嚥下部長として赴任) 【著書】

植田耕一郎:脳卒中患者の口腔ケア第2版, 医歯薬出版,東京,2015年,定価4,800円

【一般書】

植田耕一郎:「長生きは唾液で決まる」6刷講談社,東京,2014年,定価800円

【小 説】 瀬田裕平(ペンネーム): 小説・命のワンスプーン,彩流社,東京, 2021年,定価1,500円 摂食嚥下障害

摂食機能障害



摂食機能療法





リハビリテーション医学は

臓器レベルを超える問題として

生活の障害(disablement)という切り口を

持つ科学である。

● 第一の医学 治療の医学

- 第二の医学 予防の医学
- 第三の医学 障害の医学 →リハビリテーション医学

## リハビリテーション医学の理念

機能障害 1. 治療的(訓練的)アプローチ (麻痺)

活動制限 → 2. 代償的アプローチ (能力低下)

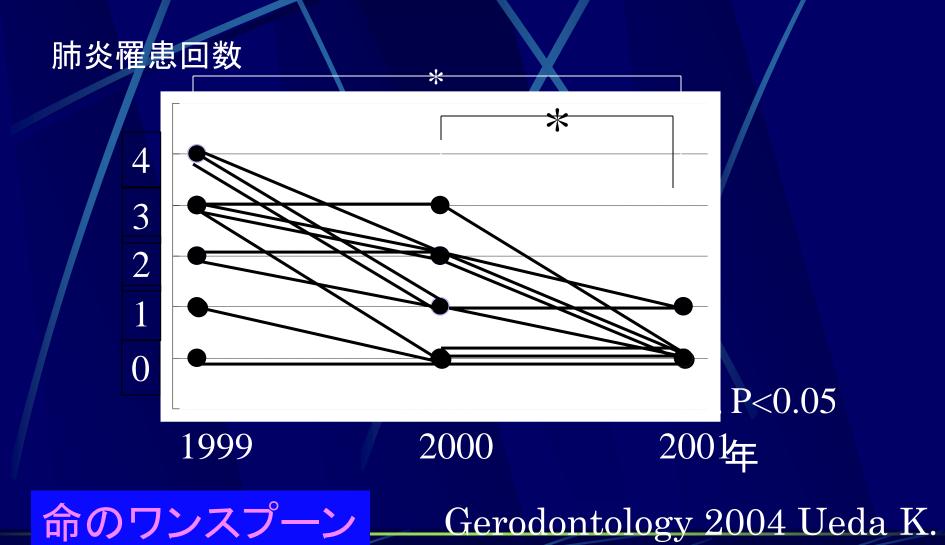
参加制約 → 3. 環境改善的アプローチ (社会的不利)

心理的障害 ——4. 心理的支援

# リハビリテーション

「治らないこともある」からこその医療

### 口腔清掃と摂食嚥下リハビリテーション施行群 (11名) 3年間における肺炎罹患回数



たしかに肺炎は格段に減少しました.しかし・・・・

我々が口腔ケア・摂食機能療法を施したところで、 あのご老人が起き上がり、立ち上がって、歩き出すわけでは ありません. もとのように食事ができるようになるわけでも ありません. 今まで通り、寝たきりの全介助の生活は続いて いるのです.

私がしたことは、いたずらにご老人の寝たきり期間を延長させただけではないのか、 ご本人は、これを幸せと感じてくれたのだろうかと思うようにもなりました。

「命のワンスプーン」の意義は何なのでしょうか?



## 介護保険に"口腔"を入れる

口腔機能向上マニュアル

~高齢者が一生おいしく、楽しく、 安全な食生活を営むために~

平成18年 3月

「口腔機能向上マニュアル」分担研究班

研究班長 日本大学歯学部摂食機能療法学講座教授 植田 耕一郎

- (1) 運動機能の向上支援
- (2) 栄養改善
- (3) 口腔機能の向上支援 2000年介護保険スタート時 には、口腔に関しては一言も 明記されていませんでしたが、 2006年に口腔ケアが表舞台に 登場しました。

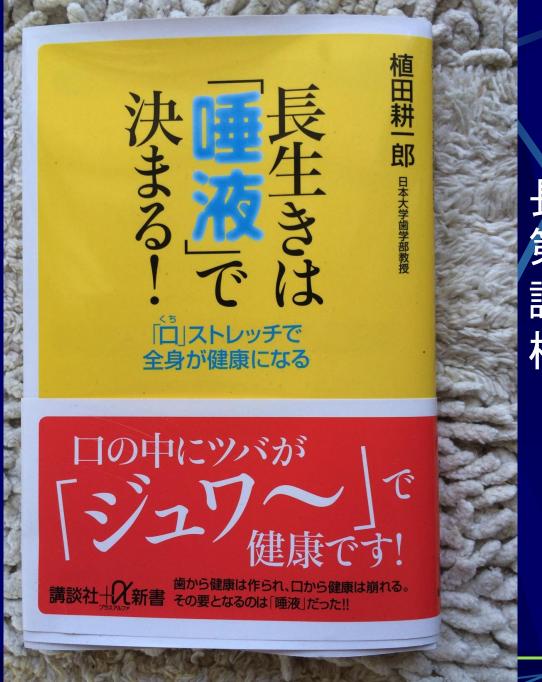


日比谷公園



金澤翔子氏 作



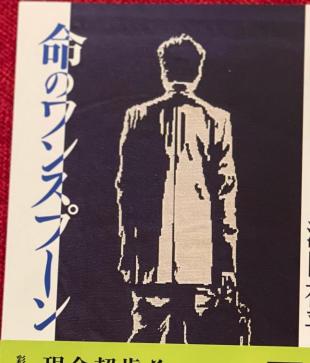


長生きは唾液で決まる 第6刷 講談社+α新書 植田耕一郎著 (定価800円)

「口」ストレッチで 免疫力向上

#### 命のワンスプーン

#### 頼田裕平(ペンネーム) 著 彩流社



瀬田裕平

日本で唯一の **摂食機能 療法学** 療法学 お学の範疇を おさた 現場があった!



《生きる》より 求められるものがある <sup>瀬田裕平</sup>

主人公は, 摂食機能療法学講座・新潟大の医局員です.

『命をつなぐひと匙の挑戦』

YouTube:「植田耕一郎」で検索

前編(10分)

https://youtu.be/\_vc47VkT9sE

後編(10分)

https://youtu.be/YGanE1erkL4